

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                                    |      |             |
|----------------|------------------------------------|------|-------------|
| ○事業所名          | ターゲット体力運動能力開発ラボ TURTLE KIDS SENDAI |      |             |
| ○保護者評価実施期間     | 令和8年1月13日                          |      | ～ 令和8年1月31日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                             | 12世帯 | (回答者数) 9世帯  |
| ○従業者評価実施期間     | 令和8年1月13日                          |      | ～ 令和8年1月24日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                             | 9人   | (回答者数) 9人   |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月25日                          |      |             |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること   | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等   |
|---|---|--|--|
| 1 | オリジナルの運動用具を用いて運動遊びを通して、感覚統合トレーニングや、利用児ひとりひとりの発達段階に合った支援を行っている。苦手なことを克服し「できた」の喜びをたくさん経験していくことで達成感ややる気につながられるような活動内容。 | 身体全体を使った粗大運動を毎日取り入れ、手や指先などの筋肉を使う微細運動も日常生活動作等を通して日々の活動内容に取り入れています。普段使わないような動きを意識して取り入れ、可動域を広げたり、元気な身体を作る体力作りを意識して行っている。 | 系列事業で体操指導30年の実績をもとに体操指導員による運動遊びを通して楽しく取り組める活動と、理学療法士・作業療法士による専門的分野から個々の身体の成長に合ったプログラムに沿って支援を行っている。 |
| 2 | 発達の基礎となる運動は、体を動かすことで姿勢保持、体幹、バランス、筋力強化に繋がる為、利用児一人一人に寄り添いながらスモールステップで「できる」ことを増やし、自信に繋がる支援をする。                         | 理学療法士、作業療法士(セラピスト)が専門的な視点から行動分析し、保育士が個々に応じた活動内容や、遊び、情緒面、集団適応能力に力を注ぎ活発な意見交換を行う。「報連相」を怠らず同じベクトルで支援することを意識している。           | 様々な研修に参加し、職員一人一人の知識を深め「子どもたちによりよい支援を」を目標に、質の高い療育現場を目指している。   |
| 3 | 面談や送迎時を利用し、保護者とのコミュニケーションを大切にしている。保護者と支援者が同じ目標を掲げ、5年後10年後を見据えた支援を行う。  | 保護者が気軽に見学に来ていただける環境を設定し、共に成長を感じ、喜び合うことでより良い支援に繋げ、専門的な視点からの確かなアドバイスをを行い支援者全体(ワンチーム)で信頼関係を構築することに努めている。                  | イベントなどを通じて家族支援に尽力する。   |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること    | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                 |
|---|--|--|--|
| 1 | ・保護者同士、きょうだい向けの交流の機会が持てなかった。                   | ・日程の調整が難しかった。<br>・行事と行事の日程が近すぎて予定を立てにくかった。                         | ・他のメイン行事を考慮して、年間行事予定にあらかじめ入れておく。                     |
| 2 | ・緊急時の避難訓練や研修を行っているが、保護者向けへ報告ができないことがあった。       | ・SNSアプリを使用して報告をしていたが、保護者が閲覧し周知しているかが不明瞭。<br>・一人一人の活動記録の中で報告を行っている。 | ・年度初めの保護者会でHUGの使い方について周知し、訓練の様子等を報告すること伝えていく。        |
| 3 | ・保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、その他地域の子どもたちとの交流の機会が少なかった。 | ・保育園やこども園へ出向いて交流を図るのは、保育園等の行事や予定があるため難しかった。                        | ・保育園やこども園に合わせるのではなく、事業所に来所していただき交流できるようなイベントを計画していく。 |